

ナーガー博士のグループがマルチスリットスペクトルメーターを持ち込んでいる。米国のサクラメントピークを中心とした大部隊も天文台のドームわきの建物の屋上に陣取っていた。メリーランド大学のクンドウ博士や、ハワイ大学のジュフリース博士は、私と同じく肉眼観測（要するに見物）に来ていた。此所での皆既は、午後3時45分より130秒間である。日食開始の2時半前後より多少雲が発生し、時々太陽を隠したので、9ギガより高い周波数の電波は吸収による変動が大きく、電波観測は成功とは言えない。幸い、皆既の15分前頃から快晴となった。皆既の直前の数秒間、シャドーバンドと呼ばれる間隔数メートルの明暗の縞模様を地上を西から東へ走りぬけた。これは、月の縁による回折模様であるが、コントラストが弱いので、注意していないと気付かない。太陽活動期である為か、皆既に成っても、内部コロナは見つめるにはまぶしすぎる程の輝度（蛍光灯より大分高

い輝度）を持ち、満月より大分明るく見え、一等星位しか見えなかった。コロナは全体として丸味をおび、10本程白色のストリーマーが略々放射状に、2~3倍の太陽半径まで伸びていた。西の縁には真赤なプロミネンスが輝いていた。ストリーマー中に微細構造が見えないかと注意していたが、さすがに肉眼では見えない。2分間はまたたく内に過ぎて、一ケのダイヤモンドが輝き、皆既は終わった。皆既直後のシャドーバンドは、さらにコントラストが弱く短時間であった。皆既に成ると動物がさわぐという話は真実であった。但しそれは、ワーとかウーという人間の叫びであった。

インドは、美しいものと汚いもの、乱雑と整然、新と旧との無秩序に入れ乱れている国である。インドの印象を聞かれて「発展途上の先進国」という表現をした人があったが、インドとはそんな感じの国であった。

学会だより

秋季年会の開催と講演の申込みについて

今秋の年会は水沢市の水沢市役所講堂で、10月21日(火)~24日(金)の4日間開催の予定です。秋季年会のプログラムは9月20日発行の天文月報10月号に掲載されますので、御留意下さい。

講演申込みは「〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 東京天文台内 日本天文学会年会係」あてに封筒の表に「講演申込書在中」と朱筆の上8月25日(月)までに必着するよう規定の申込用紙を用いてお送り下さい。

申込み用紙は、支部理事にまとめて送ってありますので希望者は返信料50円切手を同封の上、下記の理事へお申出下さい。

北海道：兼古 昇 〒060 札幌市北八条西五丁目

北海道大学物理学教室

水 沢：真鍋盛二 〒023 水沢市星が丘町 2-12

緯度観測所

仙 台：田村真一 〒980 仙台市荒巻字青葉

東北大学理学部天文学教室

東 京：宮本昌典 〒181 三鷹市大沢 2-21-1

東京天文台

名古屋：祖父江義明 〒464 名古屋市千種区不老町

名古屋大学理学部物理学教室

京 都：稲垣省五 〒606 京都市左京区北白川追分町

京都大学理学部宇宙物理学教室

中国・四国：石田五郎 〒719-02 岡山県浅口郡鴨方町
岡山天体物理観測所

九 州：上西啓祐 〒860 熊本市黒髪 2-39-1

熊本大学理学部物理学教室

◇講演申込者で、年会出席旅費の補助を希望される方は、支部理事を通じて、8月25日(月)までに「東京天文台内 日本天文学会理事長」あてに申込んで下さい。但し申込みの出来る人は、55年度会費納入済みの方で、原則として、連名の場合でもスピーカーであり、正式の給与を受けていない人(大学院生など)に限ります。

◇講演申込み・発表に際しては、特に次の事項に御留意下さい。

1. 講演は1人1回に限る。
2. スピーカーを発表者の筆頭に書く。
3. ビラの使用禁止、スライドまたはオーバーヘッドプロジェクターの使用に限る。
4. 講演内容は完成度の高い研究とする。
5. 講演申込書についても注意事項を厳守のこと。

◇旅館については225ページのリストを参照の上、各自で直接申込んで下さい。

内地留学奨学金希望者募集

昭和55年度の内地留学奨学金を希望される方は9月30日まで所定の応募用紙に必要事項を記入のうえ「〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 東京天文台内 日本天文学会理事長」あてにお申込み下さい。応募用紙は学会あてに御請求下さい。